

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

News Letter

第3号

野田村でのクリスマス会

12月16日、野田村の子供達を対象にクリスマス会の開催と市民の方々からお預かりしたクリスマスプレゼントの配布を行いました。今回は学生だけの参加ということで、学生事務局を含めた学生4人と学生事務局のOB1人、当センター副センター長の李先生の6人で野田村に向かいました。

野田村に到着し、まずはクリスマスプレゼントの配布です。野田村内の各保育園を訪ね、園児たちにクリスマスプレゼントを渡すと、「ありがとうございます」とニコニコ笑顔で受け取ってくれました。お昼寝の時間だったということで、お休み中の園児には後で先生が渡してくれるとのことでした。起きていた子供たちは、先生に「起きていていいことあったねー！」と声を掛けられ、ニコリ顔していました。とても可愛らしかったです。クリスマスプレゼントを集めてくださった市民の方々、ありがとうございました。



起きていた子どもへプレゼントを手渡し



オリジナルケーキをつくる子ども達



賑やかだったリースづくり

次に児童クラブの子供たちとのクリスマス会です。クリスマス会に向けて、事前に学生で集まり、子供達に楽しんでもらえるような案を出し合い、準備を行いました。

今回はケーキ作りとリース作りを行いました。ケーキ作りでは、学生が絵を描いたり、マスキングテープでアレンジしたカップを使ってもらい1人1個のオリジナルパフェを作れるように工夫しました。子供達は自分のお気に入りのカップを見つけ、クリームやスポンジを自分なりにデコレーションして楽しく作って食べてくれました。

リース作りでは、紙皿を用意し、好きなペンやシール、折り紙を使い、世界で1つのリースを作ってもらいました。みんなで譲りあったり、相談しあったり、お菓子を食べながら作業を進めることができました。作り終わってからは子供達のわがままタイムです。おんぶや抱っこで走り回ったり、お話を聞いたり、学生は子供達に言われるがままで、帰りには全身が筋肉痛でした。最後は市民の方からのプレゼントを配りました。子供達は何が入っているのか当てようと触ってみたり、開けてもいいかとワクワクしていました。みんなでお片づけをした後、迎えに来てくれたお母さんお父さんの元へ駆け寄り、クリスマス会でこんなことをした、楽しかったと言ってくれました。そんな様子を見て、準備に時間をかけた甲斐があったと満足気分で私たちも弘前へ帰ることができました。

こういった機会はこれからも設けていきたいものです。

これからどうなるかは学生事務局の企画力にかかってくるのかなと思います。来年度は現2年生が中心となり活動していくこととなりますが、私も全力でサポートしていきたいと思っていますので、これからもどうぞよろしくお祈りします。

(担当：人文社会科学部3年 平井典子)

憩いの場としてのあっぷる一む

私があっぷる一むの活動に参加したきっかけは、経済の講義を受けていたときに、学習支援活動の宣伝があり、そこで興味を持ったのが始まりです。当時はできたばかりで、あっぷる一むという名前はなく、単に学習支援ボランティアという名目での活動でした。

そのときの自分は所属していたサークルになじむことができず、他所から来た身ということもあり、自分の居場所をうまく見つけることができなかつたので、自分を必要としてくれる場所になつたらいいなという思いで参加しました。

いざ行ってみると最初こそ緊張しましたが、こどもたちは特別変わった印象はなく、皆いい子ばかりなので、自分にとっても居心地がいいし、こどもたちにとっても居心地のよい場所になっているのではないかと感じます。

学習支援という目的ではありますが、それと同時に、誰もが安心して一緒に空間を過ごせる環境づくりというのが、あっぷる一むの在り方なのではないかと思っています。

(担当：弘前大学理工学部2年 本間史哉)



机の配置は向き合って顔を合わせるように

「みらい」の活動を通じて感じたこと



それぞれの課題に取り組む様子

青森県立子ども自立センターみらいは青森市にある児童支援施設です。小、中学生の授業がない土曜日の午前中に学生が施設を訪れて、学習支援を行っています。

活動の中では、親や、先生、友達でもない「ナナメの関係」を意識しています。時には学習支援だけでなく、日常的な会話をすることもあります。訪れるたびに子どもたちが少しずつ成長している様子がわかるということもやりがいのひとつです。

また、運動会や学芸会など、施設で行われる行事にも参加することができます。運動会では子どもたちとともに綱引きやリレーに参加しました。学芸会では子どもたちが琴の演奏や詩の朗読、劇の発表などを行いました。普段とは違う子どもたちの表情や、仲間のために頑張る姿を見て、新たな良さに気付くことができました。

少しでも興味のある方は、まずは一度、学習支援に参加してみてください。

(担当：弘前大学教育学部3年 藤田京佑)

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・ 弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・ 弘前大学関係者・・・弘前大学ボランティアセンター E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページ、または直接ご来室やお電話でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・ 弘前大学ボランティアセンター・・・HP：http://huvvc.net/ TEL：0172-39-3268

H29年 卒業生からお世話になった皆様に



9月4日は先遣隊が野田村に行きました

今春、私は地元である弘前を離れ、旭川で医療者として働くことになり、期待と一抹の不安を感じています。しかし、弘前大学ボランティアセンターの活動を通して学んだことを活かすことで、新たな土地でも成長していけると感じられます。活動を通して出会えた方々とのつながりを胸に、自信を持って新たなことに挑戦していきたいと思えます。

私がボランティアをしていて、いつも感じるがあります。それは、誰かのために何かをしたいという気持ちの大切さ、その気持ちを共有して力を合わせることで、大きな力になるということです。震災から6年が経とうとしていますが、私達が野田村の方々と築いてきた関係は薄れることはないのではないかと自負しています。関心を寄せるだけでも、SNSなどを通じてより多くの方に野田村のこと、チームオール弘前のことを知って頂き、活動の助けになれるのではないかと考えています。これまでの活動も、その場にはいない多く市民の方々の、卒業

生のご支援もあって実現していたように感じます。これから、私も陰ながら力を添える一人として頑張っていきたいと思っています。

さて、今年私にとって最も印象深い台風10号災害の支援では、チームオール弘前の連携力や、培った経験値が最大限発揮されたように思います。新たな災害が起きても、立ち上げられる大きな力となっているように感じ、弘前を地元とする身として非常に心強く思います。希望に満ちた後輩のみんなが今も市民の皆様とともに頑張っている様子を耳にすると、その活気ある様にますます力強さを感じられて嬉しい限りです。

最後に、多くのことを学ばせて頂いた弘前の市民の方々、弘前大学の先生方、並びに見本になってくれた先輩方、慕ってくれた後輩のみんなに心から感謝申し上げます。

また皆様とお会い出来る日を心待ちにしておりますので、変わらぬお付き合いをよろしくお願い致します。

(担当：弘前大学医学部 HUV学生事務局 4年 宮川京大)



作業前の説明を聞くのも皆真剣です



滞積した泥を土のう袋に詰めました

外部派遣依頼ボランティア参加者の感想

【イベント補助ボランティアに参加して】

私は平成28年の6月、弘前駅前遊歩道賑わい祭のイベント補助ボランティアに参加しました。弘前ジャズストリートという副題からもわかるように、このイベントは弘前駅前広場にて弘前内外から来てくださったジャズバンドの演奏を聞く、といった催しです。イベント当日は雨が降り続け、肌寒い中行われる運びとなりました。一昨年開催された時よりも参加団体が増えたこともあり、ジャズの演奏を聞きに来てくださったお客さんが去年よりも多く、予め用意されていた席に収まらず立って演奏を聞く方もいらっしゃいました。

私は主に、本部にいらしたお客さんにタイムテーブルの書かれたチラシをお渡しする役割を担当しました。本部にタイムテーブルをもらいに来た方の中でも、航空自衛隊音楽隊の演奏を楽しみにして来た笑顔で話す方が印象的でした。演奏が全て終わった後は器具やテントを片付けました。テントの重りなど、翌日筋肉痛になるほど重いものがほとんどでした。この片付けがこの日一番辛かったと思います。1日頑張ったご褒美に、お弁当などをいただきましたが、一番の褒美は、普段めったに聞く機会のない生のジャズの演奏を間近ですっと聞けたことだと思います。今年は3年生になるので参加が難しくなると思いますが、予定が空いていたら今年も参加したいと思います。

(担当：人文社会科学部2年 相川佳織)



海鮮丼バック詰めのお手伝い

【弘前市場まつりボランティア活動の感想】

ボランティアは初めてだったので、自分にできるか心配でしたが、担当の方が親切に教えてくださり楽しく活動することができました。海鮮丼のバック詰めや販売など丁寧さとスピードを大事にしながら協力して行いました。働いている方のお話を聞いたり、イベントが開かれるまでの準備を見たりと、普段は体験することができない貴重な経験になりました。市場まつりは様々なイベントがたくさん開かれていて、とても魅力的だと思いました。ぜひまた参加したいです。

(担当：弘前大学教育学部3年 高橋麻里奈)



雨の降る中でもたくさんのお客さんが



熊本地震派遣部隊の方に花束を

初めての災害ボランティア

話し手・岩山雅彦(市民)と聞き手・松田耕一郎(市民)

6年前の2011年に野田村のボランティアに参加した私(松田・66才)は、昨年の久慈市への災害ボランティアに親戚の男性(岩山さん)を誘いました。初めて参加した彼に、その時のお話を聞いてみました。

Q 誘われて、すぐ行ってみようと思ったのは?

「仕事してなかったし、高校時代に農作業のボランティアをやった経験があったので、行ってみたいと思いました。洪水によって困っておられることをニュースで知っていました。」

Q 年齢と職業を教えてください。

「57才で、無職、独身です。長年やってきた仕事を失って、1年ぐらい失業していました。」

Q 何回行きましたか?

「3回です。1回目は久慈市で、魚屋さんの水没した地下の掃除と、濡れた物品を搬出しました。誘ってくれた松田さんと同じ現場に行きました。バケツリレーのようにして泥で汚れたものを次々と表に運び出しました。少し大変でした。初めてだったので、想像していたよりも大変でした。少し汚れもしました。けれども、一緒に作業をしたオシャレな方達も頑張っていました。ニュースで見ているよりも実際の現場は大変だなということがわかりました。」

「2回目も久慈市で、二手に分かれて、町から遠い一般家庭の泥出しでした。松田さんとは別の現場になりました。そこでもバケツリレー方式で、泥はけっこう重かったです。でも、夕方までになんとかやりきりました。」

「3回目は、今度は遠い岩泉町へ。一人で参加しました。2、3箇所に分かれました。中ぐらいの大きさの個人業のマーケットの片付けで、泥運びや荷物の移動をやりました。一人で行ったけど、知らない人とも話ができて楽しかったです。」



鮮魚店の水没した地下の清掃作業

Q 振り返って全般的な感想は?

「やる時はきつかったけど、後で、面白かったな、とも思いました。けっこう仲良くなった人もいて、また会いたいの、ボランティアする機会があれば行って見たいと思います。3回とも、被災されたご家族も、私たちボランティアと一緒にあって、泥まみれで作業をしておられました。私たちは時々行くだけけど、被災者さんは、あれ以来ずっと毎日作業をしておられて、大変だなと思いました。また、ジュースを差し入れしたりしてボランティアにも気を配ってくださいました。申し訳ないくらいでした。」



9月17日久慈市災害支援に参加のメンバー

Q なにか困ったようなことはありませんでしたか?

「わからないことがあれば、周りの人に聞いたりして困ることはなかったです。手が空いてやることのない時も、何をしたらよいか、人に聞きました。」

Q 一緒に行った学生さんやボランティアの市民たちと話をしましたか?

「はい。普段そうして学生さんらと話す機会もないし、楽しかったです。」

Q 行き帰りのバスはどうでしたか?

「行きは自己紹介、帰りは一人ずつ感想を言い合いました。自分とは違う気付きがあって他の人達のお話はためになりました。」

Q 昼食はどうしてましたか?

「朝、コンビニで、おにぎりや弁当を買って持って行きました。」

Q どこで食べましたか?

「1回目と2回目は、現場の前の歩道など、外で食べました。みんな一緒なので平気でした。3回目は、スーパーの中でテーブルや椅子をおいてもらってみんなで食べました。」



床板を剥がしての泥出し作業

Q あなたの友人も誘ってみましたか?

「友達も誘おうと思ったけど、みんな仕事もしているし、難しいかな、と思いました。」

Q 何かボランティア活動に対して提案はありますか?

「現場に行ってみなければわからないことが多いので、次に行く時は、自分であしたらよい、こうしたらよい、と工夫をしてやってみたい。手袋は、軍手よりも、ゴム手袋なんかがあればスムーズに作業ができたかも知れません。」

「これから就職して仕事をし始めても、土曜日が休みだったり、日程が合えばまたボランティアにも行けると思います。災害は、無いに越したことはありませんが、あったときは困っている人のために役に立ちたいです。そうすれば、自分が困ったときは逆に助けてもらえるのかな、と思いました。」

ありがとうございました。また、一緒に行きましょう。

弘前大学ボランティアセンター (HUVC)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL : 0172-39-3268 FAX : 0172-34-5251 E-mail : huvc@hirosaki-u.ac.jp